

新しい時代と新しい生き方を象徴するかのように仕事と子育てを両立させながら働く 20代から30代のニューキャリア世代の女性達。女性が仕事と子育てを両立させる環境は整ってきていますが現実はどうでしょう。今月号は「仕事と子育て(生活)の両立をテーマに働く人の声を集めました。



<働く女性特集> 子育てと仕事とNPO活動。

子育てしながら、フリーでキャリアコンサルタントの仕事と、NPO 法人代表をされている堀田さんにインタビューをさせていただきました。

NPO 活動

■堀田さんは特定非営利活動法人(NPO法人)ワークライフ・コラボの代表をされていますね。立ち上げられた背景を教えてください。

平成19年に友人と二人で「仕事と生活の両立」をテーマにした「ワークライフバランス向上委員会」を立ち上げました。きっかけは私自身が結婚・出産を経験し、仕事と生活の両立について真剣に考えさせられたことがきっかけです。

座談会などの活動を重ねながら、「現場の小さな声」を行政に伝えていく必要性を感じ、今年9月特定非営利活動法人(NPO法人)ワークライフ・コラボにいたしました。

■多方面で活動され30代のニューキャリア世代の堀田さんですが、ご家庭の様子や独自の子育て法などがありましたらお聞かせ下さい。

家族と私

現在、我が家は幼稚園年少組の娘と民間企業で働く主人、そして私の3人家族の核家族で共働き世帯です。

共働きをして、助け合って夫婦で子育てをしていることで夫婦間の風通しを良くしています。

小さい子供さんのいる共働きのご家庭では仕事と育児の事で悩みは尽きないと思います。私自身も仕事や活動をしていると、子供と過ごす時間が短くなります。短い時間でも量より質で子供との関係を大切にしようと考えています。子供を9時に寝かせつけるのであれば、子供と一緒に私も9時から寝ます。その代り3時半に起床し家事や仕事を済ませます。

この生活リズムのほうが落ち着いて子供と時間を共有できる気がするからです。長時間一緒に子供と過ごす時よりも、凝縮した親子関係が築けていると感じます。

今は娘を幼稚園に通わせ、困った時はお隣さんの心遣いのお言葉に甘えて子供を預かってもらうこともあります。様々な環境と人の中で子供は成長しています。私が仕事をしていなければ夫婦だけの孤立しがちな子育て環境だったでしょう。

今、子供は幼児期で、人との信頼関係育成時期です。すから多くの大人に大切にもらうことで、人と人のコミュニケーション形成にはいいのではと感じています。

コミュニケーション力がついたのは子供だけではなく、主人は職場で話しやすくなったとよく言われているようですし、私も子育てを通じてママ友が増えています。そこから、仕事への発展もあつたりして驚いたりもします。



仕事

■問題意識をはっきりと持って、ポジティブな発想で社会活動に邁進されていますが、現在の仕事について教えてください。

現在は愛媛県委託事業「えひめ子育て応援企業認証サポート事業」の仕事を社団法人愛媛県法人会連合会を通じて認証支援サポーターとして働いています。

この事業は県が 300 人以下の中小企業を対象にして、「仕事と子育ての両立支援」に取り組む企業を認証し、PRしていく事業です。私は企業を訪問してこの事業の PR や、必要に応じて働き方や両立の問題点など聞いて解決

策をご提案し、認証の申請書の代行など行っています。

今、「仕事と生活の両立」ワークライフバランスの言葉は知られるようになりましたが、現状は具体的な取り組みの効果を「理解しようとされる方」と「理解しようとされない方」と二極化しています。

仕事と生活の両立

■堀田さんが仕事や NPO のテーマとされているワークライフバランス「仕事と生活の両立」の目的や取り組みを教えてください。

ワークライフバランスについて私の言葉で簡潔にまとめれば、個人に生活の張り、仕事の張り、…を持たせることで個人のモチベーションを上げ企業へ相乗効果をもたらすということです。私は、生産性、婚活、経営相談、メンタル、キャリアの 5 つにまとめています。



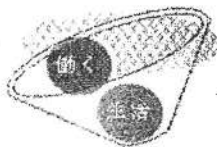
生産性

■生産性の向上でいますと…。

例えば、今晚飲み会がある日には、仕事を効率的に終わらせようと試行錯誤しながら効率よく仕事を処理していく。または、一週間ほどの休みを取ろうとした時、仕事の引き継ぎがスムーズにいくようにデスク周りをきれいに整理整頓するとか、ポジティブな思考が働いているからできる技です。

人は楽しみがあれば能率を上げられる能力があります。それを活かす策を職場（仕事）の中に制度として導入できれば企業として生産性が向上します。

時間とお金をかけて人材育成する IT 関係や医療関係は特に社員の定着が大切なので、この制度が必要とされています。



向上

balance + ♥

「仕事と生活の調和を図る」ということは経営戦略の一つだという観点を認識していただき、両立させることで経過とともに企業は成長し、企業にメリットがあることを理解していただくことが私たちの最初の仕事です。



☆認証を受けた企業が「えひめ子育て応援企業」であることを表示するために使用できる認証マークです。

「えひめ子育て応援企業認証制度」とは。

この制度は、従業員の仕事と子育ての両立を支援する取り組みや、働き方の見直しの取り組みなどに関する行動計画の策定と着手・育児に関する就業規則の整備を促すものです。

婚活

■少子化問題を婚活で解決…。

企業さんを訪問すると社長さんが、「従業員がなかなか結婚できないでいる。」という話をされます。これは、少子化の根本的な問題なのですが、独身の女性の方はまだまだ相手に依存する結婚のカタチを求めています。今の現実を知りません。現実を知らないまま男性も女性も婚期を遅らせている結果になっています。

結婚をすることで視野が広がり職場にも活気が湧き、生活にも張りが出てくるでしょう。少子化対策にも繋がります。

堀田 真奈さん / 特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ (代表)

ワークスタイルプランナー・キャリアコンサルタントとして活躍 <http://www.worcolla.com>

経営相談

■こういう不況の時ですから、経営者の方の相談も。

不況の時ですから、経営者の方も経営で多くの悩みを抱えており、そのような人達が増加傾向にあります。

多くの経営者は孤独で気軽に相談する相手がいらっしやらないので大変だと思います。

子育て応援企業には認証企業向けの低金利融資制度があるので、この制度も是非利用していただきたいですし、経営のどこに問題があるかをヒアリングで探し、解決策を考え、利用できる制度の活用をお勧めします。

メンタル

■メンタルヘルスでは…。

リストラなど労働環境の悪化、低い収入で生活環境が悪化していることが原因と言われる中高年の自殺者数が年々増加傾向にあります。この問題は繊細なメンタルヘルスが必要ですし、急務だと感じています。

キャリア

■キャリア相談では…。

NPO 法人「ワークライフ・コラボ」では、今年 10 月からキャリア相談を始めました。仕事と生活の間で起きていて表面化していない問題をニッチ(隙間の問題)と捉えて解決していきます。

編集後記：ワークライフバランスの入口が少し理解できたように思います。これからの日常生活の中で自ら活かしていくとともに、周りの人達にも知らせていくことに心がけていきたい。 K

仕事と子育ての両立 アンケート



女性が子育てをしながら仕事をしようとする時、仕事と子育ての両立ができるかが気かりです。

以前から「主婦が働きやすい職場」として女性に人気の職業、生命保険の外交員。この方たちの「仕事と子育ての両立」の現状をアンケートしました。

■このアンケートは、乳幼児や小学生を育てながら仕事をされている20代・30代・40代女性(生命保険会社勤務)に、アンケートを行いました。 収集日/2009年12月2日

●1…子供を預けている保育園や託児所を含む、ご近所での子育て協力者まで、幅広い意味で「子育て支援先」を聞いてみました。

一番多かったのが保育園。次に親元。学童クラブとなっています。

少数ですが、託児所・子供の友達の家・親類・ご近所もありました。

急な残業が入った時、保育園や学童クラブは対応できません。そういう時に、個人的なネットワークで対応されているようです。

●2…「仕事と子育て(生活)の両立で一番困ったことは何ですか?

年齢を問わず、困った時イコール「病気の時」がダントツでした。

●その時、一番頼りにした所、したかった所は?

その時、頼ったり、一番に頼りにしたかった所は実家・両親・夫でした。

子供の病気が完治するまで側にいたいのは親心ですが、仕事を優先させるとき、母親としては親を頼りにしているようです。

●3…「仕事と子育ての両立」に必要なと思うことは?(箇条書き)

●企業に対して

会社の理解力・職場の理解・職場の理解と制度

●病児に対しての受け入れ体制

病気の時や夜間にちょっとみていてくれるような所・病気でもあずかってくれる所

●その他

夫の協力・国からの支援・時間

愛媛県委託事業(平成21年度労働者の声発信事業)

発行 社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町125番地 愛媛労福協会館3階

TEL:089-946-2296 FAX:089-947-5616

メールアドレス:e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp